

[課程一2]

審査の結果の要旨

社会医学専攻
医療コミュニケーション学教室
氏名：原木 万紀子

本研究は、本国の小学校児童に対し、健康教育教材作成を通して、内容およびイラストレーションに対する興味関心の喚起、内容の理解、知識持続、知識活用に効果的なイラストレーションの検討を行うことを目的とし、研究1では、内容および対象に対し、適切な情報を描写したイラストレーションは、内容およびイラストレーションに対する興味関心の喚起、内容の理解、知識持続に作用をするのではないかという点について、研究2では、イラストレーションを付加した教材の活用状況、および対象にとって題材の内容に最もふさわしいイラストレーションがどのようなものであるのかについて調査を行い、以下の結果を得ている。

1. 内容に対する興味関心について、高エネルギー可視光線題材においてイラスト有群の方が無群に対し有意に得点が高く、イラストレーションの有無における関心度の差が見られた。ただし、結果が題材ごとで異なるように、同じ対象に実施した場合でもイラストレーションが全ての題材で同じ効果を示すわけではないことが明らかとなった。
2. イラストレーションに対する興味関心について、全ての題材で内容に関係のあるイラストレーション（内容イラスト、付随イラスト）が、内容と関係のないイラストレーション（装飾イラスト）よりも関心度が高かった。情報に対して内容に関係したイラストレーションを用いることが、イラストレーションに対する興味関心に対し、作用することが明らかとなった。
3. 内容に対する興味関心、およびイラストレーションに対する興味関心について、全ての題材で内容に対する関心の興味高さと、イラストレーションに対する興味関心の高さに正の相関が認められた。
4. 既知度の低い対象には、写実的な表現を用い文章に対し付随の情報を付加したイラストレーションの効果が認められ、イラストレーションを用いてより多くの情報を伝える

ことが既知度の低い人々に対する、適切なイラストレーションであるという可能性が示唆された。

5. 教材実施後の使用状況について調査を実施したとこと、教材の見直し、題材についての会話、事後学習が発生していることが示された。
6. 文章に対して児童個人が考える題材の内容に最もふさわしいイラストレーションの調査を実施したところ、イラストレーションの種類において、内容イラスト、付随イラスト、イラストレーションの表現において写実的表現に回答が集中した。

以上、本論文はイラストレーションを活用した健康教育教材開発において、同じ対象に調査を実施した場合でも、題材が異なることでイラストレーションの効果も異なる点、また既知度の低い人々には、文章での情報に加え、新たな情報を盛り込んだイラストレーションを用いてより多くの内容を伝えることで、内容に対する興味関心へと繋がっていく点が明らかになった。本研究はこれまで検討されてこなかった、イラストレーションの違いによる情報への興味関心の喚起、内容の理解、知識持続、知識活用への関連を調査し、得られた結果はヘルスコミュニケーション向上のための手段として重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。